

2025年3月期 第1四半期決算説明資料

2024年8月2日

株式会社 **ダイセル**

- (1) サマリー
- (2) 2025年3月期 第1四半期業績
- (3) セグメント別 売上高・営業利益 (対 前年同期 増減・要因分析)
- (4) セグメント別 事業概況
- (5) 連結貸借対照表
- (6) Appendix

2025年3月期 第1四半期業績：売上高 1,456億円、営業利益 175億円、EBITDA 270億円

対前年同期

増収（+11.3%）営業増益（+91.5%）

- 自動車部品関連は、日系自動車メーカーの認証不正問題の影響を受けたものの、前年同期に顧客の在庫調整の影響が大きかったことや、電子材料関連市場の需要が回復基調であること、為替影響などにより、売上高は増加
- エンジニアリングプラスチックを中心とした販売数量の増加や、為替影響などにより営業利益・EBITDAは増加

対予想

売上高、営業利益は想定を上回る進捗

- 日系自動車メーカーの認証不正問題が影響したものの、エンジニアリングプラスチックの販売数量の増加、電子材料関連市場の需要回復が想定を上回ったことや為替が円安で推移したことなどにより、売上高・営業利益は予想を上回った

2025年3月期 第1四半期業績

	2024/3 1Q実績	2025/3 1Q実績	対前年同期		上期予想※	進捗率
			増減	増減率		
売上高	1,308	1,456	+148	+11.3%	2,950	49.3%
営業利益	91	175	+83	+91.5%	320	54.6%
経常利益	127	182	+55	+43.2%	335	54.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	150	162	+12	+8.0%	300	54.0%
為替レート USD/JPY	137	156				
EBITDA	166	270	+104	+62.7%		

※2024年5月9日に発表した数値です。

セグメント別 売上高・営業利益（対前年度 増減・要因分析）

	売上高							売上高 上期予想 進捗率
	2024/3 1Q実績	2025/3 1Q実績	増減	増減率	分析			
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響	
メディカル・ヘルスケア	34	35	+1	+3.3%	△2	+3	+4	49.8%
スマート	84	103	+20	+23.4%	+22	△2	+8	62.5%
セイフティ	224	233	+9	+4.0%	+0	+9	+20	44.8%
マテリアル	452	445	△7	△1.5%	△46	+40	+44	48.9%
エンジニアリングプラスチック	503	627	+124	+24.6%	+113	+11	+52	49.8%
その他事業	12	13	+1	+9.1%	+1	-	-	50.7%
合計	1,308	1,456	+148	+11.3%	+87	+60	+128	49.3%

	営業利益							営業利益 上期予想 進捗率	
	2024/3 1Q実績	2025/3 1Q実績	増減	増減率	分析				
					数量影響	価格影響	その他		営業利益の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	3	1	△2	△70.2%	△3	+1	△0	+1	94.9%
スマート	1	5	+4	+343.4%	+15	△9	△2	+5	-
セイフティ	△7	△0	+6	-	△3	+1	+8	+2	-
マテリアル	86	91	+4	+5.1%	△20	+30	△6	+24	55.7%
エンジニアリングプラスチック	7	77	+70	+951.4%	+41	△0	+29	+10	61.2%
その他事業	△0	1	+1	-	+1	-	-	-	36.6%
合計	91	175	+83	+91.5%	+31	+24	+29	+43	54.6%

※ 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

セグメント事業概況（2025年3月期 第1四半期）



セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の状況（対前年同期）・当社の取り組み
メディカル・ヘルスケア	キラル 関連製品	キラル関連製品の需要は、海外を中心に堅調に推移	<p>前年同期に大型スポット案件があったことで充填剤の販売数量は減少。キラルカラムの需要は堅調だが、中国での販売数量は減少。中国での一部設備移設に伴い一時的に分取サービスが減少</p> <p>【当社の取り組み】</p> <p>中分子医薬向けのアキラルカラムなど新製品のマーケティング強化 遺伝子関連事業における営業・マーケティング体制強化</p> <p>4月にダイセルメディカルが第二種医療機器製造販売業許可を取得 PharmaJet社と共に世界的な無針注射器市場の立ち上げとアクトランザの米国薬事承認手続き早期完了を目指す</p>
	化粧品原料 健康食品素材	<p>コスメは、国内市場はインバウンド需要が好調。中国市場は復調の兆候が見られ始めた</p> <p>健康食品の国内市場はインバウンド需要により堅調に推移</p>	<p>化粧品原料は、好調なインバウンド需要を捉え販売数量が増加。健康食品素材の販売も好調に推移</p> <p>【当社の取り組み】</p> <p>化粧品原料は、BELLOCEA®（真球状酢酸セルロース）の生分解性改良グレード投入に向けて、マーケティングを加速</p> <p>健康食品素材は、新製品のアストロホップ®（ホップ由来の腸内代謝物）投入を計画。また、ラクトビオン酸（乳糖由来のオリゴ糖）など既存製品の新たな機能を訴求するためのマーケティングを強化</p>

セグメント事業概況（2025年3月期 第1四半期）

セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の状況（対前年同期）・当社の取り組み
スマート	<p>カプロラクトン誘導体</p> <p>脂環式エポキシ</p>	<p>カプロラクトン誘導体は、自動車塗料用途の需要が堅調に推移。主要市場である中国のウレタン需要も回復傾向</p> <p>脂環式エポキシは、液晶ディスプレイや電子基板用途など電子材料用途の需要が緩やかに回復</p>	<p>カプロラクトン誘導体および脂環式エポキシは、需要回復により販売数量が増加</p> <p>【当社の取り組み】</p> <p>カプロラクトン誘導体は、新設の北米テクサ拠点も活用して、成長市場であるEV向け材料や自動車向けPPF（※）用途のマーケティングを強化。新規案件獲得に向けた品質改良も加速</p> <p>脂環式エポキシは、北米テクサ拠点も活用して、当社特殊エポキシなど競合他社との差別化による拡販アクションを推進</p>
	<p>フォトレジスト材料</p> <p>電子材料向け溶剤</p> <p>機能フィルム</p>	<p>半導体市場、液晶パネル市場ともに緩やかな回復基調にあり、フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤の需要が増加</p> <p>機能フィルムは、中国市場における車載ディスプレイ用途の需要が堅調に推移する一方で、燃料電池向け離型フィルムは需要が低下</p>	<p>フォトレジスト材料および電子材料向け溶剤は、需要回復に伴う拡販により販売数量が増加</p> <p>機能フィルムは、車載ディスプレイ用途の販売数量は増加したものの、燃料電池向け離型フィルムの販売数量が減少</p> <p>【当社の取り組み】</p> <p>フォトレジスト材料は、EUV用途の早期採用に向けた開発を加速させるとともに、溶剤と一体化したマーケティングを強化。また、マイクロ流体デバイスプラントを2025年3月期中に導入</p> <p>電子材料向け溶剤は、海外市場開拓を加速し、さらなる販売数量増加を目指す</p> <p>機能フィルムは、離型フィルムの燃料電池用途以外の新規アプリケーションのマーケティングを強化</p>

※PPF（Paint Protection Film）： 塗料保護フィルム

セグメント事業概況（2025年3月期 第1四半期）

セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の状況（対前年同期）・当社の取り組み
セイフティ	エアバッグ用インフレーター	グローバルの自動車生産台数は横ばい。当社のインフレーター需要は、日系自動車メーカーによる認証不正問題の影響などにより減少。	<p>一部日系自動車メーカーの不正問題の影響もあり、インフレーターの販売数量は微減</p> <p>【当社の取り組み】</p> <p>2023年10月に稼働開始したインド拠点で新ライン建設を計画。成長市場である中国・インドの新規プログラム獲得に注力</p> <p>欧州EV用途電流遮断器を量産開始する計画。欧州・中国での拡販に取り組むとともに、電流遮断器のクリーンエネルギー向け蓄電池用途やボンネットリフターの欧州・中国での販路開拓も強化</p> <p>グローバルの各拠点にて継続したコストダウンを徹底</p>
マテリアル	酢酸	酢酸のPTA・VAM用途の需要は引き続き低調に推移	<p>酢酸の販売数量はVAMやPTAなど主要誘導品の需要低下の影響により減少</p> <p>【当社の取り組み】</p> <p>酢酸は安定供給体制を強化し、海外市況の影響を受けにくい国内の中・小口顧客向けの拡販アクションを実施</p>
	アセテート・トウ	世界のたばこ生産本数は前年度に引き続き横這い水準。アセテート・トウ需要は堅調に推移	<p>アセテート・トウは、顧客の在庫調整の影響などにより一時的に販売数量は減少</p> <p>【当社の取り組み】</p> <p>アセテート・トウは、対前年度で販売数量を増加させるべく既存設備をフル活用して需要に対応</p>

セグメント事業概況（2025年3月期 第1四半期）

セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の状況（対前年同期）・当社の取り組み
マテリアル	TAC	液晶パネル市場は緩やかな回復傾向にあるものの、液晶ディスプレイ向けの競合素材が伸長	TACは海外TACフィルムメーカーへの拡販実施による効果はあるものの、液晶ディスプレイ向けの競合素材が伸長し、販売は前年同期並み 【当社の取り組み】 TACは、需要が低迷するなかでも海外TACフィルムメーカーへの拡販によりシェア拡大に取り組む
	1,3-BG	国内化粧品市場は回復基調にある一方、中国、韓国市場は低調に推移し、当社の1,3-BGの需要も低調	1,3-BGは海外市場の需要低調の影響により販売数量が減少 【当社の取り組み】 1,3-BGは当社が高いブランド力を誇る無臭市場でのシェアを堅持するとともに、海外市場でのシェア拡大に取り組む
エンジニアリング プラスチック	POM PBT PPS LCP	自動車部品用途は、日系自動車メーカーの認証不正問題の影響を受けたものの、顧客の在庫調整の影響で需要が低下した前年同期と比較して需要が増加 主に中国におけるスマートフォンやデータセンター関連の需要が回復傾向にあり、当社の電子デバイス用途の需要も増加	自動車用途の需要増加に伴いPOM、PBT、PPSの販売数量は増加。さらに、POMはディストリビュータを通じた積極的な拡販による販売数量増加 LCPも電子デバイス需要の回復に伴う拡販により販売数量が増加 【当社の取り組み】 POM・LCP増設プラントが下期に稼働する計画。増設キャパシティを活かした拡販および中国市場のさらなる開拓に向けて現地の開発・マーケティング体制を強化 国内外のポリプラスチックグループ生産拠点へのダイセル式生産革新展開により、コストダウンと生産効率化を加速

※TAC（Tri-acetyl cellulose）： 光学フィルム用酢酸セルロース

セグメント別 事業概況（対 予想（4月～6月））

メディカル・ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">ライフサイエンス事業は、欧州拠点におけるサイバー攻撃による一時的なキラルカラム販売数量減や、中国拠点におけるラボ移転遅延により販売数量の減少があったものの、全体では計画並み。ヘルスケア事業の化粧品原料は計画並み。健康食品素材は、一部製品の販売が前期へ前倒しとなった影響により計画を下回ったが、市場環境は堅調
スマート	<ul style="list-style-type: none">カプロラクトン誘導体は、自動車用塗料用途が堅調で、中国向けのウレタン需要も堅調なことから販売数量が計画を上回った脂環式エポキシは、液晶ディスプレイ用途や電子材料用途の需要回復が想定を上回り、販売数量も計画を上回ったフォトレジスト材料は、需要回復に伴う拡販により販売数量は計画を上回った電子材料向け溶剤は、需要は緩やかな回復基調にあるものの、一部海外顧客向け販売数量が減少し、計画を下回った機能フィルムは、主に中国EV向けの需要が増加し車載用ディスプレイ用途の販売数量は計画を上回ったものの、燃料電池用途の離型フィルムの販売数量は計画を下回った
セイフティ	<ul style="list-style-type: none">日系自動車メーカーの認証不正問題や、中国政府による景気刺激策不調の影響などにより、インフレータの販売数量は計画を下回った
マテリアル	<ul style="list-style-type: none">酢酸の販売数量はVAMやPTAなど主要誘導品の需要が低調に推移したことで計画を下回った。酢酸市況は想定よりも高い水準で推移アセテート・トウは、堅調な需要が継続しているものの、一時的な顧客の在庫調整の影響により販売数量が計画を下回ったTACは、液晶パネル市場の回復に伴う拡販により、計画を上回った1,3-BGは、国内化粧品市場が回復基調であることに加え、海外への拡販にも取り組み、販売数量は計画並み
エンジニアリングプラスチック	<ul style="list-style-type: none">POMの販売数量は、ディストリビュータを通じた拡販アクションなどにより計画を上回ったものの、日系自動車メーカーの認証不正問題や日系自動車メーカーの中国市場での苦戦の影響により、PBT、PPSの販売数量は計画を下回ったLCPは、スマホなどの電子デバイス需要が回復傾向にあり、販売数量は計画を上回った

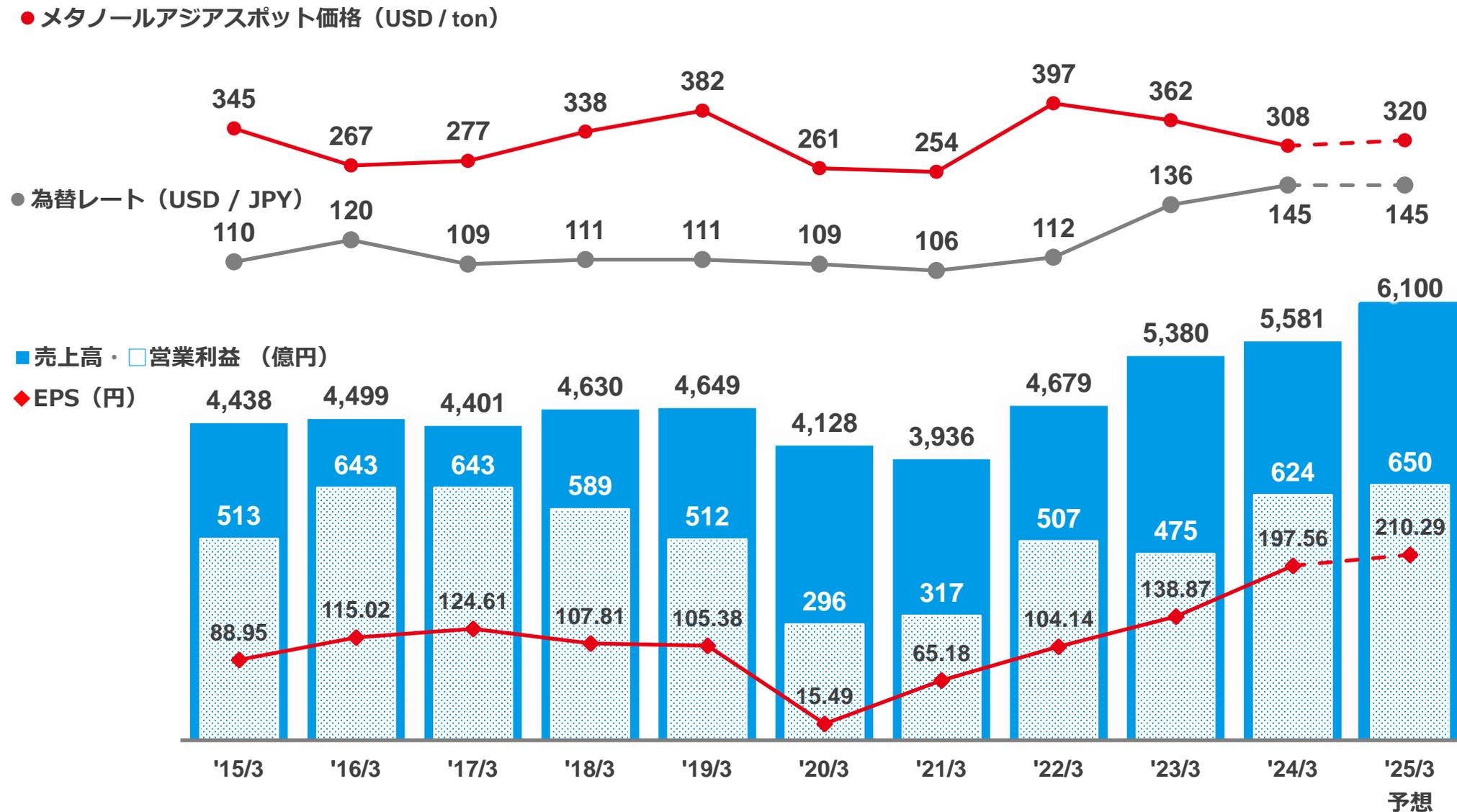
連結貸借対照表

		2024年 3月末	2024年 6月末	増減
単位：億円				
流動資産		4,095	4,142	+47
	現預金及び有価証券	732	735	+3
	受取手形及び売掛金	1,144	1,120	△24
	棚卸資産	1,825	1,865	+40
	その他	394	421	+28
固定資産		4,297	4,553	+256
	有形固定資産	3,089	3,241	+151
	無形固定資産	108	108	+0
	投資その他資産	1,100	1,205	+105
資産合計		8,392	8,695	+303
負債		4,638	4,671	+33
	有利子負債	3,041	3,055	+14
	その他	1,596	1,615	+19
純資産		3,754	4,024	+270
負債純資産 合計		8,392	8,695	+303

- 総資産増加額303億円のうち、268億円は為替影響
- 棚卸資産増加額の40億円は、主に為替影響
- 有形固定資産増加の主な要因は、ポリプラスチックスグループのPOM・LCP・COC製造能力増強投資
- 投資その他資産は、主に投資有価証券の時価上昇により増加

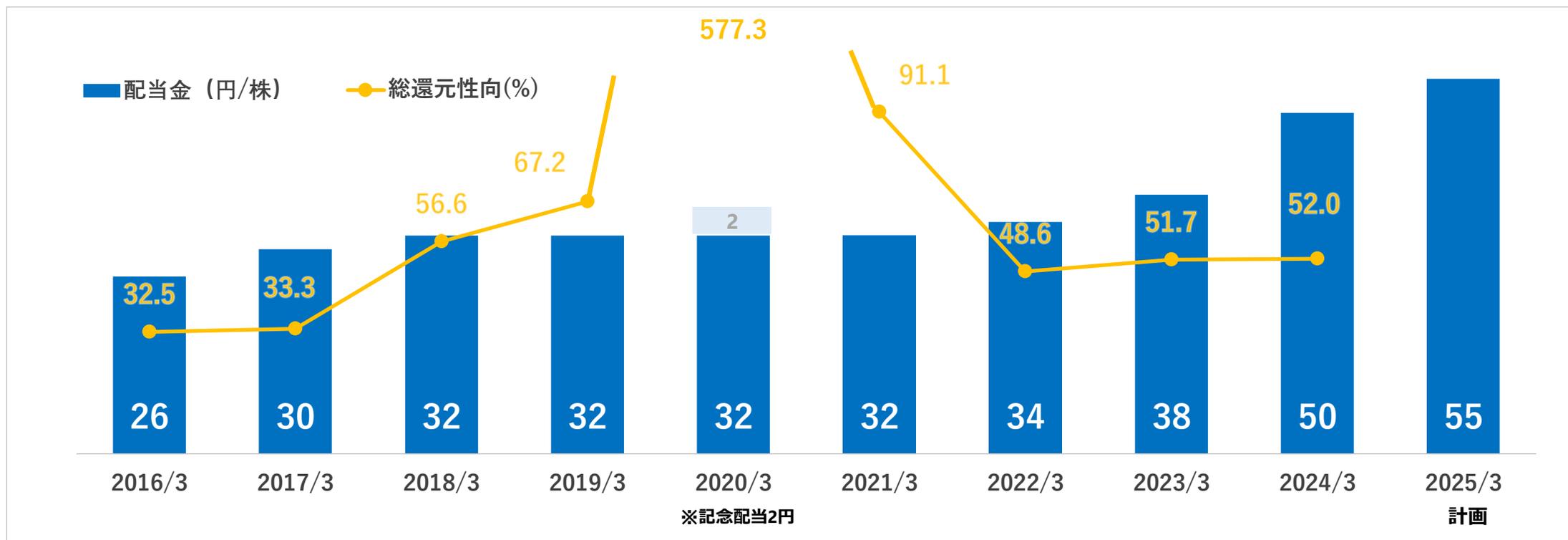
Appendix

売上高・営業利益・EPSの推移



2025年3月期

- ・年間配当計画 55円/株（前期から**5円増配（DOE4.0%）**）
- ・5月に約1,000万株（発行済株式数の3.49%）の自己株式消却を実施
- ・**DOE4%以上かつ総還元性向40%以上**を目標に今後さらなる株主還元を検討



セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

単位：億円

	売上高				
	2024/3				2025/3
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
メディカル・ヘルスケア	34	35	36	34	35
スマート	84	84	83	87	103
セイフティ	224	247	256	229	233
マテリアル	452	439	433	499	445
エンジニアリングプラスチック	503	584	608	573	627
その他事業	12	13	15	16	13
合計	1,308	1,402	1,433	1,438	1,456

単位：億円

	営業利益				
	2024/3				2025/3
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
メディカル・ヘルスケア	3	2	4	△1	1
スマート	1	0	△4	△6	5
セイフティ	△7	5	25	6	△0
マテリアル	86	112	93	116	91
エンジニアリングプラスチック	7	54	60	62	77
その他事業	△0	2	1	2	1
合計	91	175	179	179	175

※ 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

セグメント別 営業利益 (対 前年同期 増減・要因分析)

		営業利益		
単位：億円		分析	増減	主な増減要因
メディカル・ヘルスケア	数量影響	△3	キラル製品関連の販売数量減少	
	価格影響	+1	為替影響	
	その他	△0		
スマート	数量影響	+15	電子材料関連市場の需要回復に伴う過酢酸誘導体製品やフォトレジスト関連の販売数量増加	
	価格影響	△9	販売価格の製品構成差	
	その他	△2	電子材料向け溶剤増産プラント稼働に伴う償却費増加	
セイフティ	数量影響	△3	インフレータの販売数量が微減、品種構成差	
	価格影響	+1	為替影響	
	その他	+8	北米の生産拠点の統合に伴う経費減少	
マテリアル	数量影響	△20	顧客の在庫調整に伴うアセテート・トウの販売数量減少や酢酸の販売数量減少	
	価格影響	+30	為替影響	
	その他	△6	一酸化炭素プラント稼働による償却費の増加 (△) や在庫影響 (+)	
エンジニアリングプラスチック	数量影響	+41	自動車部品関連の需要回復やPOMの拡販による販売数量増加	
	価格影響	△0	原料価格低下に伴う販売価格低下 (△) と為替影響 (+)	
	その他	+29	前年同期にマレーシア拠点の大型定期修繕費用などがあったことによる経費減少、在庫影響	

※ 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

TAC (スマート→マテリアル)、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体 (マテリアル→スマート)

2025年3月期業績予想

単位：億円

		2024/3 実績※1			2025/3 予想※2			増減
		上期実績	下期実績	年間	上期予想	下期予想	年間	
	メディカル・ヘルスケア	69	70	139	70	80	150	+11
	スマート	168	170	338	165	190	355	+17
	セイフティ	471	484	956	520	560	1,080	+124
	マテリアル	890	932	1,822	910	950	1,860	+38
	エンジニアリングプラスチック	1,087	1,181	2,268	1,260	1,340	2,600	+332
	その他事業	25	32	57	25	30	55	△2
売上高		2,710	2,871	5,581	2,950	3,150	6,100	+519
	メディカル・ヘルスケア	5	3	8	1	7	8	+0
	スマート	1	△10	△9	△5	0	△5	+4
	セイフティ	△1	31	30	32	45	77	+47
	マテリアル	199	209	408	163	162	325	△83
	エンジニアリングプラスチック	61	122	183	126	111	237	+54
	その他事業	1	3	4	3	5	8	+4
営業利益		266	358	624	320	330	650	+26
経常利益		307	377	684	335	335	670	△14
親会社株主に帰属する当期純利益		298	261	558	300	280	580	+22
(参考) 為替レート USD/JPY		141	148	145	145	145	145	

※1 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映
TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

※2 2025年3月期業績予想は、2024年5月9日に発表した数字です。

為替レート・主要原燃料価格動向

		2024/3 実績		2025/3 計画		2025/3 実績
		上期	下期	上期	下期	1Q
為替レート (USD/JPY)		141	148	145	145	156
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	295	322	320	320	337
	原油 ドバイ (USD/bbl)	82	82	90	90	85
	国産ナフサ (円/kl)	65,550	72,800	71,000	71,000	79,000(※)

※2024年8月2日時点の予想

マテリアルセグメント、スマートセグメントの組織再編

スマートセグメントにおけるM&A後のシナジー促進、人財育成などをより迅速かつ効果的に推進するため、組織再編を2024年4月1日付で実施。また、同日付で、既存事業同士のシナジー効果最大化を目的に、マテリアルセグメントの脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体をスマートセグメントへ、光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）をマテリアルセグメントへ移管するとともにマテリアルセグメントの組織再編を実施

セグメント	サブセグメント	製品
スマート	ディスプレイ/ オプト	光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）、機能フィルム、オプティカルレンズ
	IC/半導体	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、有機半導体デバイス
マテリアル	アセチル	酢酸、酢酸誘導体（酢酸エチル、無水酢酸など）、酢酸セルロース、アセテート・トウ、ケテン誘導体、エチルアミン
	ケミカル	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、1,3-BG



セグメント	サブセグメント	製品
スマート	ファンクショナルプロダクツ	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、オプティカルレンズ
	アドバンスドテクノロジー	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、有機半導体デバイス、機能フィルム、
マテリアル	アセチル	酢酸、無水酢酸、アセテート・トウ
	ケミカル	光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）、酢酸セルロース、1,3-BG、酢酸エチルなど有機溶剤、ケテン誘導体、エチルアミン

※ 青字：スマートセグメントからマテリアルセグメントに移管した製品、赤字：マテリアルセグメントからスマートセグメントに移管した製品

- **本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。**

- **ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。**
 - ・ **本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。**
 - ・ **いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。**